

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	カズサホス
SDSコード	:	HB-20
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	試験研究以外の用途には使用しない事。人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事。環境中に使用しない事。

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	分類できない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	分類できない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	区分に該当しない	
	健康有害性	急性毒性(経口)	区分2
		急性毒性(経皮)	区分1
		急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)		分類できない	
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)		区分1	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分に該当しない	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分1	
生殖細胞変異原性		区分に該当しない	
発がん性		区分に該当しない	

	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (神経系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (神経系)
	誤えん有害性	分類できない
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示  
(GHS JP)



GHS06



GHS08



GHS09

- 注意喚起語 (GHS JP) : 危険
- 危険有害性 (GHS JP) : 飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合や吸入した場合は生命に危険 (H300+H310+H330)  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317)  
臓器の障害 (神経系) (H370)  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (神経系) (H372)  
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 (H410)
- 注意書き (GHS JP)
- 安全対策 : 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)  
眼、皮膚、衣類につけないこと。(P262)  
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)  
環境への放出を避けること。(P273)  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)  
[換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。(P284)
- 応急措置 : 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)  
皮膚に付着した場合:多量の水で洗うこと。(P302+P352)  
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)  
ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。(P308+P311)  
直ちに医師に連絡すること。(P310)  
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)  
口をすすぐこと。(P330)  
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察／手当てを受けること。(P333+P313)  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P361+P364)  
漏出物を回収すること。(P391)
- 保管 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)  
施錠して保管すること。(P405)
- 廃棄 : 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
カズサホス	≥95%	C10H23O2PS2	-	2-(7)-313	95465-99-9

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

### 4. 応急措置

#### 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
多量の水と石鹸で優しく洗うこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい  
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 爆発の危険 : 加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に  
消火する。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。  
消火に使用した水が環境中に流出しないようにする。  
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。  
関係者以外の立ち入りを禁止する。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な  
保護具を着用し、風下で作業行わない。

#### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。  
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 漏出は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。  
できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。  
回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。

漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗いうがいをする。

作業所の十分な換気を確保する。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

### 保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。

窒素封入。

直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。

技術的対策 : 適用法令を遵守する。

保管温度 : 冷蔵保管 : 2~10°C

## 8. ばく露防止及び保護措置

ばく露限界値	
カズサホス	
許容濃度(ACGIH)	TWA 0.001 mg/m <sup>3</sup> (IFV), STEL -

設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴

眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

呼吸用保護具 : 防毒マスク

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

外観 : 液体

色 : データなし

臭い : 硫黄臭

pH : データなし

融点 : < 25 °C

凝固点 : データなし

沸点 : データなし

引火点 : 129.4 °C

自然発火点 : データなし

分解温度 : データなし

可燃性 : データなし

蒸気圧 : 0.0009 mm Hg

相対密度 : データなし

密度 : 1.1 g/cm<sup>3</sup> (20°C)

相対ガス密度 : データなし

溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分係数(Log Pow)	: 3.9
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 硫酸酸化物

## 11. 有害性情報

カズサホス	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】(1)～(8)より、区分 2 とした。【根拠データ】(1)ラット(雄)の LD50: 48 mg/kg (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、JMPR(2009)) (2)ラット(雌)の LD50: 30 mg/kg (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、JMPR(2009)) (3)ラット(雄)の LD50: 131 mg/kg (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、JMPR(2009)) (4)ラット(雌)の LD50: 39 mg/kg (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、JMPR(2009)) (5)ラット(雄)の LD50: 80 mg/kg (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)) (6)ラット(雌)の LD50: 42 mg/kg (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)) (7)ラットの LD50: 30.1 mg/kg (EFSA (2009)) (8)ラットの LD50: 39 mg/kg (ACGIH (2017))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】(1)～(7)より、区分 1 とした。【根拠データ】(1)ウサギの LD50: 10.7 mg/kg (EFSA (2009)) (2)ウサギ(雄)の LD50: 12 mg/kg (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録(2015)) (3)ウサギ(雌)の LD50: 11 mg/kg (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)) (4)ウサギ(雄)の LD50: 24 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2021)) (5)ウサギ(雌)の LD50: 42 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2021)) (6)ウサギの LD50: 11～41 mg/kg の間 (ACGIH (2017)) (7)ウサギの LD50: 12～42 mg/kg の間 (JMPR (2009))
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】GHS の定義における液体であり、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉末)	【分類根拠】(1)～(3)より、区分 1 とした。なお、ばく露濃度は飽和蒸気圧濃度 (0.011 mg/L) より高いため、ミストと判断した。【根拠データ】(1)ラット(雄)の LC50 (4 時間、ミスト): 0.04 mg/L (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)) (2)ラット(雌)の LC50 (4 時間、ミスト): 0.026 mg/L (GLP) (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)) (3)ラットの LC50 (4 時間): 0.032 mg/L (ACGIH (2017))
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ (n=6/群) を用いた皮膚刺激性試験 (GLP、閉塞、原液 0.015mL 又は 0.007mL、4 時間適用、72 時間観察) において、0.007mL 適用群、0.015mL 適用群ともに全ての観察時点で刺激性反応が認められなかった。0.015mL 適用群では 6 例中 4 例が適用後 24 時間以内に死亡した。死亡動物の肉眼的病理検査では異常は認められなかった。0.007mL 適用群では一般状態の異常が認められなかったとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015))。 (2) 本物質は皮膚刺激性物質ではない (EFSA (2009)、ACGIH (7th, 2017)、JMPR (2009))。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ (n= 6/群) を用いた眼刺激性試験 (GLP、原液 0.1mL 又は 0.01mL) において、0.1mL 適用群では 1 時間後にわずかな刺激性反応 (平均スコア: 110 点中 3.2 点) がみられたが、全例が 2 時間以内に死亡した (肉眼的病理検査で異常なし)。0.01mL 適用群では適用後 24 時間後に 1 例で軽度の結膜発赤が認められた。適用 24/48/72 時間の時間別の平均スコア (110 点満点) は 0.2/0/0 であった (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2017))。 (2) 本物質はウサギの眼に刺激性を示さない (ACGIH (7th, 2017)、JMPR (2009))。

カズサホス	
呼吸器感受性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	【分類根拠】(1)より、区分 1B とした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した。【根拠データ】(1)モルモット(n=20)を用いた Maximisation 試験 (GLP、皮内投与: 0.5%検体)において、惹起 24、48 時間後の陽性率は 35%(7/20 例)、40%(8/20 例)であり、皮膚感受率は 40%であったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015))。【参考データ等】(2)モルモット(n=20)を用いた Buehler 試験 (GLP、局所投与: 100%検体)において、惹起 24、48 時間後の陽性率はともに 5%(1/20 例)であり、紅斑が認められた 1 例に対して惹起 48 時間後に再惹起したところ、皮膚反応は認められなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015))。
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)、(2)より区分に該当しない。【根拠データ】(1)In vivo では、ラットの骨髄細胞を用いた染色体異常試験で陰性であった(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、EFSA (2009))。(2)In vitro では、細菌を用いた複数の復帰突然変異試験、ほ乳類培養細胞(CHO 細胞)を用いた遺伝子突然変異試験及び染色体異常試験で、いずれも陰性の結果であった(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、ACGIH (7th, 2017)、EFSA (2009))。
発がん性	【分類根拠】(1)～(3)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)国内外の評価機関による既存分類結果として、EPA でグループ E (Evidence of Non Carcinogenicity for Humans)に(EPA OPP Annual Cancer Report 2020 (Accessed August 2021): 1992 年分類)、ACGIH で A4 に(ACGIH (7th, 2017))分類されている。(2)ラットを用いた 2 年間混餌投与による慢性毒性/発がん性併合試験の結果、最大 5.0 ppm (雄/雌: 0.222/0.280 mg/kg/day)までの用量で発がん性は認められなかった(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、ACGIH (7th, 2017)、JMPR (2009)、EFSA (2009))。(3)マウスを用いた 22 ヶ月間混餌投与による発がん性試験の結果、最大 5.0 ppm (雄/雌: 0.705/1.00 mg/kg/day)までの用量で発がん性は認められなかった(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、ACGIH (7th, 2017)、JMPR (2009)、EFSA (2009))。
生殖毒性	【分類根拠】(1)～(3)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットを用いた混餌投与による二世代生殖毒性試験 (GLP)において、5 ppm で F1 親動物に体重増加抑制及び赤血球コリンエステラーゼ (ChE) 活性阻害がみられたが、繁殖能に対する影響は認められなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、EFSA (2009)、JMPR (2009))。(2)ラットを用いた強制経口投与による発生毒性試験 (GLP、妊娠 6～15 日)において、6 mg/kg/day 以上で親動物に自発運動低下、下痢、流涙、振戦等の ChE 阻害に関連した症状がみられたが、児動物には軽微な発生影響(骨化遅延・低体重)のみがみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、ACGIH (7th, 2017)、EFSA (2009)、JMPR (2009))。(3)ウサギを用いた強制経口投与による発生毒性試験 (GLP、妊娠 7～19 日)において、発生毒性はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、JMPR (2009))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【分類根拠】(1)～(2)より、区分 1 (神経系)とした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した。【根拠データ】(1)ラットを用いた単回経口投与試験(急性神経毒性試験、GLP)において、25 mg/kg (区分 1 の範囲)で下痢、腹部性器の汚染、口の分泌物、糞の減少、血尿、振戦及び消沈・赤血球 ChE 活性阻害(20%以上)、脳 ChE 活性阻害(20%以上)、自発運動量減少(雄)が、40 mg/kg (区分 1 の範囲)で被毛汚染(雄)、死亡率の増加(20%) (雌)、取扱い時の跛行(雌)、流涙(雌)、流涎(雌)、尿プール数の増加(雌)、テールフリック潜時延長(雌)、後肢握力低下・自発運動量減少(雌)がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、JMPR (2009))。(2)複数のラットを用いた単回経口投与試験 (GLP)において、2.5 ～120 mg/kg (区分 1 の範囲)で下腹部の汚れ、自発運動低下、下痢、流涙、流涎、振戦、横臥、赤血球 ChE 活性阻害(20%以上)等がみられたとの報告がある。(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】(1)～(4)より、区分 1 (神経系)とした。【根拠データ】(1)ラットを用いた混餌投与による 90 日間反復経口投与試験 (GLP)において、5.0 ppm (0.327 mg/kg/day (雄)、0.389 mg/kg/day (雌)、区分 1 の範囲)で赤血球 ChE 活性阻害(20%以上)、死亡(雌: 1/15、死因不明)が、800 ppm (59.1 mg/kg/day (雄)、67.9 mg/kg/day (雌)、区分 2 の範囲)で死亡(雄: 11/15、雌: 13/15)に至ったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、ACGIH (2017)、JMPR (2009))。(2)ラットを用いた混餌投与による 90 日間亜急性神経毒性試験 (GLP)において、300 ppm (20.0 mg/kg/day (雄)、23.1 mg/kg/day (雌)、区分 2 の範囲)で脳・赤血球 ChE 活性阻害(20%以上)、体重増加抑制・摂餌量減少、着地開脚幅及び前肢握力減少(雄)、触診に対する過敏反応及び糞の減少(雌)がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015))。

カズサホス	
	(2015)、JMPR (2009))。(3)ラットを用いた混餌投与による2年間慢性毒性/がん原性併合試験 (GLP)において、5.0 ppm (0.222 mg/kg/day (雄)、0.280 mg/kg/day (雌)、区分1の範囲)で赤血球 ChE 活性阻害 (20%以上)、自発運動量減少及び Eos 減少 (雌)がみられたとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、EFSA (2009)、ACGIH (2017)、JMPR (2009))。(4)マウスを用いた混餌投与による22ヵ月間慢性毒性/がん原性併合試験 (GLP)において、1.0 ppm (0.141 mg/kg/day (雄)、0.189 mg/kg/day (雌)、区分1の範囲)で腎壊死性動脈炎 (雄)が、5.0 ppm (0.705 mg/kg/day (雄)、1.00 mg/kg/day (雌)、区分1の範囲)で赤血球 ChE 活性阻害 (20%以上)及び副腎皮質萎縮、副腎皮質限局性過形成 (雄)、十二指腸粘膜過形成 (雌)がみられたとの報告がある。その一方で、腎壊死性動脈炎及び副腎への影響は用量依存性に乏しかったとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、EFSA (2009)、ACGIH (2017)、JMPR (2009))。【参考データ等】(5)イヌを用いた強制経口による90日間反復経口投与試験 (GLP)において、影響がみられなかったとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、JMPR (2009)、PubChem (Accessed Aug. 2021))。(6)イヌを用いた強制経口による1年間慢性毒性試験 (GLP)において、影響がみられなかったとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2021)、農薬抄録 (2015)、ACGIH (2017)、JMPR (2009))。
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

カズサホス	
水生環境有害性 短期(急性)	甲殻類(オオミジンコ)48時間 EC50 = 0.00257 mg a.i./L (水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準として環境大臣の定める基準の設定に関する資料, 2014)であることから、区分1とした。(a.i.: active ingredient)
水生環境有害性 長期(慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(BIOWIN)、甲殻類(オオミジンコ)の NOEC = 0.00181 mg a.i./L (農薬抄録, 2015)から、区分1となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階(魚類)に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく、魚類(コイ)の96時間 LC50 = 0.246 mg a.i./L (農薬抄録, 2015、水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準として環境大臣の定める基準の設定に関する資料, 2014)から、区分1となる。以上の結果から、区分1とした。(a.i.: active ingredient)
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。  
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 2810
- 正式品名 (IMDG) : TOXIC LIQUID, ORGANIC, N.O.S.
- 容器等級 (IMDG) : I
- 輸送危険物分類 (IMDG) : 6.1
- 危険物ラベル (IMDG) : 6.1
- クラス(IMDG) : 6.1
- 区分(IMDG) : 6.1
- 特別規定 (IMDG) : 274、315

少量危険物(IMDG)	:	0
微量危険物(IMDG)	:	E5
包装要件(IMDG)	:	P001
ポータブルタンク包装規定 (IMDG)	:	T14
輸送特別規定-タンク(IMDG)	:	TP2、TP13、TP27
積載区分 (IMDG)	:	B
特性および観察結果 (IMDG)	:	Toxic if swallowed, by skin contact or by inhalation.
緊急時応急措置指針番号	:	154
<b>航空輸送(IATA)</b>		
国連番号 (IATA)	:	2810
正式品名 (IATA)	:	Toxic liquid, organic, n.o.s.
容器等級 (IATA)	:	I
輸送危険物分類 (IATA)	:	6.1
危険物ラベル (IATA)	:	6.1
クラス (IATA)	:	6.1
区分(IATA)	:	6.1
PCA 微量危険物(IATA)	:	E5
特別管制区(PCA)少量危険物(IATA)	:	Forbidden
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA)	:	Forbidden
PCA 包装要件(IATA)	:	652
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	:	1L
CAO 包装要件(IATA)	:	658
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	:	30L
特別規定(IATA)	:	A3、A4、A137
ERGコード (IATA)	:	6L
<b>海洋汚染物質</b>	:	該当
<b>国内規制</b>		
海上規制情報	:	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	:	航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	:	154
<b>特別な輸送上の注意</b>	:	運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

## 15. 適用法令

### 国内法令

労働安全衛生法	:	【令和6年4月1日新規追加物質】 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9) S, S-ビス(1-メチルプロピル)＝O-エチル＝ホスホロジチオアート(別名カズサホス)(政令番号: 457 の 5)
毒物及び劇物取締法	:	毒物(指定令第1条) S, S-ビス(1-メチルプロピル)＝O-エチル＝ホスホロジチオアート及びこれを含有する製剤
消防法	:	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)
外国為替及び外国貿易法	:	輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	:	毒物類・毒物(危規則第2、3条危険物告示別表第1)
航空法	:	毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	:	その他の危険物・毒物類(毒物)(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
道路法	:	車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)



化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) : 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)  
S, S-ビス(1-メチルプロピル)＝O-エチル＝ホスホロジチオアート(別名  
カズサホス)(政令番号: 331)(100%)  
【改正後 令和5年4月1日以降】  
第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)  
S, S-ビス(1-メチルプロピル)＝O-エチル＝ホスホロジチオアート(別名  
カズサホス)(管理番号: 331)(100%)

## 16. その他の情報

参考文献 : 17322 の化学商品(化学工業日報社)  
国際化学物質安全性カード(ICSC)  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)  
ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)

その他の情報 : この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品  
を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識  
で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責  
任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情  
報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使  
用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査  
は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処  
理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS  
が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書  
が優先され他国言語による文書は参考文書とします。